

委 員 会 議 事 録

令和 7 年度川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第 2 回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会			
日 時	令和 7 年 12 月 12 日 (金) 15:00～16:15	場 所	川崎市役所本庁舎 306 会議室
委員	金子 忠一様 藏田 幸三様 田代 順孝様 村田 浩一様	出席者	川崎市 建設緑政局 緑政部 磯部部長 【みどり・多摩川事業推進課（事務局）】 小藪担当課長・渡仲担当係長・川原職員・ 川島職員 【みどりの保全整備課】 小林係長 【夢見ヶ崎動物公園】 小倉園長・石川課長補佐・苔米地担当係長
<p>座席順（会場）</p>			
<p>15 時 05 分 事前連絡・資料確認</p> <p>事務局：ただいまから「令和 7 年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第 2 回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会」を開催する。資料はお手元に配布した資料をご覧ください、モニターの画面に共有するのでご参照いただきたい。</p> <p>15 時 05 分 次第 1 開会・緑政部長より挨拶</p> <p>緑政部長：夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会は今回が 2 回目となる。前回、様々なご助言をいただき、それをもとに計画も深度化させてきた。今後はパブコメも行い、市民からの意見も得る予定である。そうした中、夢見ではすでに協働の取り組みが進んでいる。お手元に配布した資料の中にあるクリアファイルは、職員が描いたイラストで作成しており、サポーターやボランティアの方が集まるゆめみらい交流会、企業や大学との連携も進んでいる。再整備の検討について、引き続きご助言いただきたくお願い申し上げる。</p> <p>15 時 07 分～委員紹介・会議の公開について （事務局より委員の紹介）</p>			

事務局：ここからの進行は委員会の会長である金子委員に進行をしていただく。

金子委員：まず会議の公開について事務局より説明をする。

（事務局より会議の公開に関する説明）

金子委員：ただいまの説明のとおり、本会議は原則公開により審議を行う。事務局からの説明に対し、何かご意見はあるか。

（意見なし）

金子委員：ご意見がなければ、原則公開として進めてよろしいか。

（異議なし）

金子委員：それでは、会議を公開として進める。本日は傍聴希望者はいるか。

事務局：傍聴希望者は0名です。

金子委員：傍聴希望者はいないため議事をすすめる。

15 時 15 分～ 次第 2 議題

金子委員：次第にしたがって進める。次第 2 の (1)「夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）」について、事務局で説明した後に、委員の皆様から御意見、御質問等をいただきたい。

事務局：

資料に基づき説明させていただく。お手元に配布している再整備計画（案）の概要版を使用し、事前に委員の皆様には計画（案）の説明を行ったが改めて流れを説明する。

7 月に再整備計画の素案を提出し、皆様から様々なご意見をいただき議論を深めてきた。概要版の 1 枚目について、「はじめに」の部分はこれまでの再整備に向けた検討の流れを示している。本再整備計画は、昨年度の策定した再整備計画骨子を踏襲しながら、動物公園としての役割を見直し、中長期的な視点を踏まえた事業推進や管理運営手法などについて示すものである。対象区域は民有地を除く公園区域であり、計画期間は 10 年である。下段に現況について記載しており、夢見は市街地の中に浮かび上がる緑の島のような姿で、里山樹林、公園、動物園の 3 つのエリアで構成されている。市内唯一の動物公園であること、四季を通じて幅広く利用されており、展示動物は 51 種である。

2 枚目上段は利用状況・収支状況について記載しており、春と秋に来園者が増える傾向にある。園内に社寺などの民有地や 5 か所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、無料で運営してきた経緯がある。また、収入と人件費、餌代などの支出額について示している。上段右は夢見の課題の説明を記載しており、特に施設の老朽化は顕著となっている。

2 枚目下段にある再整備の考え方は、都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場としての動物公園を創造することとしている。また、夢見にある資源について再整理をした。

3 枚目については再整備計画の基本的な考え方として、3 つの基本方針、五感をつかったプログラムなどを実施する旨記載している。基本方針 1 の「緑と人が出会う」について、里山樹林を活用し、市民協働による樹林地管理を支える施設や休憩場所を設置する。また、その発生材の利用も検討する。ボランティアとの協働により、昆虫教室などのプログラムを実施していく。基本方針 2 の「人と人が出会う」について、来園者や動物が安全に散歩できる園路や、暑熱環境に対応した休憩施設などの施設整備を行う。基本方針 3 の「生きものと人が出会う」では、さわるだけではなく「ふれあい」を提供し、情報発

信や働く環境の充実などを行う。動物の食べ物や夢見の取組を見て、来園者が「自分にできることは何か」を考えるプログラムを進めていく。

4 枚目について、ゾーニングは現状を活かすことで整備による負担を軽減する。3つのエリアの特性に沿った整備を行うこととし、具体的な施設は記載のとおりである。また、5期までの段階的な整備の範囲を右の図で示した。まずは老朽化の進むインフラや動物病院、獣舎等の整備を行い、それが終わったのちに園路や公園などの整備に進む。

5 枚目について、夢見から地域への波及イメージを示した。再整備で強化する「いのちを感じるしかけ」が、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、よい効果が波及していくことを目指す。協賛や実験的な取り組みを企業や大学などと拡充していく。また、夢見の取組の社会貢献について発信し、利用者、市民に新しい価値を提供する。掲載している写真のうち、赤枠で囲ったものは既に取組が始まっている。ページ右側にあるような、より広がりのある企業との活動を進めていく。

6 枚目のコレクションについては、飼育環境の充実や五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、将来的に 35 種+α の導入も進めていく。ページ下段、概算工事費は 53.2 億としており、建築の費用が中心となる。多額となるが庁内でも理解を得て進めている。事業手法と運営手法について、獣医療や飼育はこれまでどおり直営で行い、駐車場の運営やプログラムやイベントの実施は民間と協働で強化していく。スケジュールについて、再整理計画は令和 8 年の 5 月に策定し、整備に向けた基本設計などを進め、令和 10 年度から飼育動物を移動させながら段階的に工事に進んでいく。

参考資料の再整備計画策定に向けた今後のスケジュールについて説明する。本日以降、令和 8 年の 1 月にまちづくり委員会にて報告を行い、2 月にパブコメで市民から意見を募集する。3 月に庁内検討会議を行ったのち、有識者会議にて報告をさせていただく。

15 時 30 分～ 質疑応答

金子委員：事務局より資料についてポイントを絞って説明いただいた。それでは、委員の皆様からご意見、ご質問等をいただきたい。

村田委員：この会議の前に動物公園を拝見した。立地が良いと感じた。夢見は新しい動物園の方向性を示せると期待している。再整備計画では、何をやりたいのか、明確に発信したほうがいいと思う。その方向性により、施設配置、人員配置をしていくものだと考える。動物園については、世界的に潮流が変化している時期である。アニマルウェルフェアも含め、世界の潮流を踏まえたうえで展示、コレクションプランを考えるとよいと思う。夢のある計画で楽しみにしている。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：夢見は市街地の中に立地し、周辺には企業も多く、公園で活動する市民も多い。動物公園として、市民、企業とのつながりをより強く持ちたいと考えている。最近では協働について上手く回りはじめ、企業からの新たな取組についてお声がけが来ている。夢見のこういったところが価値であるのか、さらに議論を進めていく。

田代委員：質問だが、この計画の資料は市民に公開されるものか。

事務局：今回の資料をもって再整備計画として公開する予定である。

田代委員：計画書という理解でよいか。

事務局：そのとおりである。

田代委員：計画書か、計画かで意味合いが変わってくると感じている。

緑政部長：再整備の考え方をとりまとめる計画である。市民の方等に共有するため冊子等としてとりまとめる場合は計画書と呼ばれるかもしれないが、今回、策定するものは、「夢見ヶ崎動物公園再整備計画」である。

田代委員：内容は伺っている。出てくる用語が様々で市民には理解しにくいと感じる。例えば、動物園とせず動物公園としているが、その違いについて説明がない。森と樹林との言葉の使い分けなどもそうである。市民に公開する際には、それぞれの用語の説明が必要ではないか。ゾーニングとは、など用語解説などを添付すると思う。また、文字数が多く感じるため、もっと簡潔に表現できないだろうか。市民が理解するためには時間がかかる計画と感じる。市民が理解しやすい計画を作っていただければと思う。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：用語について伝わりづらいとのご指摘をいただいた。再整備計画（案）は市民向けにもう1枚、別で作る予定である。私たちは専門用語を分かった上で書いているが、市民に伝わらない、理解するのに時間がかかるということはご指摘のとおりと感じるので、文字数を整理し、市民向けの概要版を作成する。

金子委員：どんな動物園にするかということが重要である。よこはま動物園（ズーラシア）などの大きな動物園とは違う、夢見の特徴を出した方がよい。「いのちを感じる」と、「企業と市民とともに育てる公園」であるというところを大切にしたいと思う。市民が主体的に取り組んでいけると思えるものにすることが大事である。民間パートナーとの協働がむずかしい部分は、他のパートナーを考えるとすることもできるだろう。引き続き他園の事例などを参考にして進めてほしい。財源的な面から、プログラムの面から、サポーターを巻き込んでいくとよい。ゆめみらい交流会など資料にあるように、サポーターになり得る人が多くいるのではと感じる。新宿中央公園などは、部分的なネーミングライツをしている。トイレのほか、じゃぶじゃぶ池のネーミングライツも募集していた。大企業でなくても、地域の小さな商店などに関わることもよい。よこはま動物園にもアニマルペアレンツ制度がある。来園者が自分のできる範囲で動物園をサポートする。来園者や市民が、自分たちが動物園でできる

こと、職員と一緒に作業をするなど、考えていければよい。市民、民間には様々な才能をもった方、イベントで中心となる方などがいるはずなので、サポーターを巻き込む仕組みを考えられるとよいと感じる。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：夢見は来園者から身近に感じてもらえることが特徴であり、日常の中にある動物園だと感じている。気軽に来てもらえる動物園として、今後はより企業にも関わってもらいたい。そのためには施設の老朽化、山の上という立地などが課題として残る。民間活力の導入は、継続的に事業者にはアリスリングを行っているが、施設の老朽化や無料の動物園ということもあり、今は手をあげていただけていない。今後整備が進むと、参入したいと手をあげてくれることもあると感じている。現在も新たなお声がけも来ている状況であり、民間との協働事業、金銭的な面での関りも検討していきたい。

小倉園長：ゆめみらい交流会の資料を今回お配りした。公園の植栽の部分は加瀬山の会というボランティアが管理に加わってくれている。近隣の小学校などと協力して花壇づくりやこども植物クラブ、剪定、セミの抜け殻探しなどの体験を地域の子供たちと一緒にに行ってくれている。ナミキデザインさんは、無償で動物の絵やポスターを描いてくれている。慶応義塾大学のメディアデザインの学生、留学生などは夢見のパークセンターでワークショップを行ってくれている。その他、近隣の保育園との連携などもしているが、企業との連携が現在は薄いところである。寄付の拡充についても他園を参考としながら、進めていきたい。

村田委員：野毛山動物園を視察されたと聞いた。野毛山動物園はファンドレイジング、クラウドファンディングは大変なので止めようという方針となり、スタッフがそれぞれできることをはじめています。動物舎の前に置いている募金箱は1,000万円を超えており、(金額は記載してよいでしょうか?)参加費200円ほどのイベントでも、3日間で数十万の収入となっているとのことである。最近はお金を出したい、支援をしたいという来園者の意識も高い。無料だと逆にクレームが来たりする。夢見でも来園者に出資者になってもらう、という道があるように思う。

田代委員：2ページ目について、何がやりたいかはよく分かった。そのための協力が必要だということだが、どう協力し、どう支援をすればいいのだろうか。2ページ目がその肝となると思うが、改めて言葉が大事だと感じている。いのちを感じるというキーワードがあるが、これは何を示すのか。陸上のいのちが中心と思うが、海のいのちはあるのか。先ほども指摘したが、動物園と動物公園の違いは何か。動物公園として再整備をする、ということを強調されてはどうか。都市が自然と共生する姿勢を示す場とあるが、都市が姿勢を示せるのか、人がやることではないだろうか。生物多様性などの概念、表現の議論が今も活発にある。先ほども指摘したが用語の解説は必要であると感じている。

また、出会うという言葉についても、意味が多様である。これもミーティングプレイス、アクションを起こすきっかけなどの意味があるのではないかと。単に人がいる、動物がいる、という意味ではなく、もっと積極的な意味が含まれるはずである。里山樹林と公園と動物園の図も、エリアが分かれているように見えるが、動物公園と表現するのはなぜか。里山樹林と公園と動物園、山の頂上で一体的に取り組をし

たいという表現になっていると分かりやすいと思う。また、カタカナの言葉について、アニマルウェルフェアも市民が理解できるだろうか。分かりやすく伝え、理解してもらうという原則で検討いただければと思う。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：市民に分かりやすく、という点を大事にしていく。専門用語を市民にも理解しやすくする。図も、私たちは内容や用語が分かった上で書いているものであり、見直していく。生物多様性について、みどりの将来像の議論を庁内で進めている。今後のキーワードとなるもので、庁内でも検討を進めているので、この計画でも記載したいと考えている。

金子委員：藏田委員へ、事務局からは事前に資料を説明していると聞いているが、ご意見などがあればいただきたい。

藏田委員：開始時間に間に合わずお詫び申し上げる。資料は事前にご説明いただいた。基本的な考え方について、都市が自然と共生する姿勢を示す場としての価値を社会に訴え、その価値に対して民間が関り、ノウハウや金銭面の支援を引き寄せるという意味で、夢見は支援を集めやすいと感じる。すでにクラウドファンディングなどで関りがなされていると聞いている。既存のものも素晴らしい取組だが、価値の循環につなげることが重要と感じている。PPPでは社会実装、実験にチャレンジして、社会にインパクトを及ぼすかどうか重要となってくる。民間も活動をPRし、経営ビジョンを示す場を求めている。公園があり、動物がいて、周辺に企業、関係人口が多く、貴重な場だと感じる。この共有の場で、一緒に、共に実証していくということが示せればよい。夢見のような場所は少ないので、競争相手も少ないのではないかな。注目すべきはローカルプラットフォームである。具体的な絵を動かす場、窓口、コミュニケーションを取る場と仕組みの実現が重要である。ふるさと納税でも良いし、学生の活動でも良い。資源の循環を加速化していくパッケージ、加速化していくための官民のつながりの場として再整備計画で掲げるとよいのではないかな。市が、民間の課題に対して解決の場があることを示すということも重要である。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：再整備計画はモノをつくることを中心に考えることが多いが、再整備後の価値、何をするか、という、コトを広げていきたい。大学、市民など多くの人を結ぶハブの機能は、現在は市が担っている。プラットフォーム的に、市民や民間の横のつながりを持つことで、新たな価値が生まれると感じる。地域だけでなく、さらに外からの企業、団体からも価値を見出してもらえと思う。議論を継続しながら広げていきたい。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

村田委員：5ページ目の地域への波及について、エリアを3つに分けている。動物公園なので、公園と動物園を分けるべきかどうか、疑問に思える。里山樹林があり、公園があって、その中で動物を見るとい

うイメージである。また、飼育との関りで、動物の寝床をつくるというのは、どういう意味か不思議に思える。食べ物を育てるなども分かりにくく感じる。動物園を維持するなら飼育技術、責任はとても重要である。日本では動物園の飼育はアルバイト、契約社員など短期雇用の方が担うことが多いが、そういうところは衰退しているように感じる。飼育などをしっかりと取り組んだうえで、公園としても憩える場所であるという筋書きがよいのではないか。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：整備において施設配置を考える際にゾーンを分けて設定している。地域への波及イメージの図にははっきりとしたゾーン分けは必要ないかもしれない。私たちも再整備を検討するうえで、関わる職員の配置について大変重要であると認識した。飼育についても民活を進める方向性もあったが、特殊な動物を扱う場合は、市が責任をもってやるべきであり、覚悟をもって継続していきたいと考えている。

金子委員：再整備計画は市民の目線で伝えることも重要である。目指す方向性を示し、何を整備していくかを見せる資料作りをすると思う。

田代委員：再整備計画ということで、ハードを中心にした事業計画となっている。53億に対して獣舎の整備が28億。全体の園路やインフラなどを合わせると事業費全体の8割になる。ハードを中心とした再整備計画と書いておくと分かりやすく良いのではないか。再整備計画にも様々あり、パークマネジメントも含めたうえでハードを整備する、という概念を盛り込むと分かりやすいと思う。また、誰が何をするのか、主体をはっきりとし、流れを見える化してはどうか。直感的に分かりやすいように、ダイアグラムなども検討されたい。

藏田委員：今後の進め方の参考として共有する。国土交通省のスモールコンセプションプラットフォームというものがあり、これはよくできている仕組みと感じている。プレーヤーが中心となり、アクションをする方が繋がり、形をつくる。運営委員会をオンラインで配信しているなど、新しい取組もされている。より多くの関りを作り、単に金銭的な支援をしてください、ではなく、技術を持ち込んでもらい、それを喜んで使う子供やお年寄りがいる、などが実現できると良いと思う。運営に関して得意なことを活かせる民間の方もいる。大きな声でパートナーを集めると良い。個別にそれぞれ相談するのは労力もかかり難しいが、持続的に回すための職員の育成にもなると感じる。

民間、大学、企業などをまとめてうまく進めていくことが重要である。横浜の共創フロントの相談窓口などを参考にされたい。民間の声を寄せてもらい、実現に向けて職員、プラットフォームのメンバーが協力して進めるといった仕組みを持った公園は面白いし、持続していくと思う。そういった循環をつくることが大切である。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

田代委員：非常にユニークな動物公園、再整備計画である。川崎モデルとして名乗っていくといいので

はないか。そうなってほしいと思う。動物公園という仕組みでやっているのは珍しく、外部向けのPR材料として、見える化してほしい。直感で方針や価値が分かるようなものが欲しい。

金子委員：事務局から回答いただく。

緑政部長：たくさんご意見をいただき感謝申し上げます。施設の老朽化への対応というところから再整備計画は始まった。ハードを中心として議論をしてきたが、整備後にどう運営するのか、が重要であると改めて感じた。整備の手法、動物飼育は従来どおりで行う方針であるが、すでに多くのパートナーが存在している。管理運営の考え方をしっかりと盛り込むことが大切である。パートナーをつくる仕組みづくりについてもご助言をいただいた。今後はその必要性について明記し、ブラッシュアップしていきたい。

金子委員：より市民に愛される動物公園となることを期待している。市民も夢見の再整備を期待しているように思う。様々なことを学べる場として工夫して再整備を進めていってほしい。

田代委員：最後に、フェーズフリー、防災の観点について述べたい。非常時について、どう扱うかが抜けていると感じる。防災について示せるのであれば、備え、役割、姿勢などを示せるといいと思う。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

(意見・質問なし)

金子委員：本日は様々なご意見をいただいた。今後計画はさらにバージョンアップしていくことと思う。本日の議題は以上となる。それでは、事務局に進行をお返しする。

16時15分 閉会・緑政部長より挨拶

緑政部長：本日はありがとうございました。先ほども本日のまとめとして述べたが、夢見の再整備事業は、川崎モデルや新しい動物園の形として示せると感じた。本日いただいたご意見を参考としながら、引き続き検討を進めていく。

事務局：それでは、以上で「令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第2回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会」を終了する。

16時15分 終了

以上